

営農情報

(イチゴ)

第96号平成22年11月29日発行

J A 福岡大城
南筑後普及指導センター

11月の生育経過

定植後の10月以降の乾燥などにより昨年よりやや生育が遅れており、また台風の影響でハウスビニル被覆が11月になった場合は特に遅れている。9月15日頃定植で頂果の収穫、9月17日頃定植の株冷・夜冷で白熟期、普通作型はさらに生育遅れ傾向であり9月25日頃の定植で着果～指先大である。一部で21日以降定植の短期株冷や普通作型で鶏冠果や着果数が過多の株がみられる。

2番果房は10月下旬に分化しており、早期作型では内葉数5～7枚で出蕾し始めている。主に夜冷で一部早進株が見られている。

1番花房から少し遅れて(内葉数1～2枚)出蕾する早進株や着果過多の株は、果数が非常に多くなるが果実の品質は悪く、また芯止まりとなり易いので収量(益)が確保できない。適切な摘果を行う必要がある。

病害虫ではタンソ病により本ほど枯死しており、またダニの発生が見られる。



12月の管理方針について

早期作型では果実肥大・着色の進展による株への負担の増加に加え、外気温の低下・日照時間の短縮で、株の弱り(わい化)が現れるようになる。また、2番果房の出蕾時期でもあり、株の弱りは2番果房以降の収量減となる。そのため、株が弱らないような管理が重要であり、心葉の伸び方を確認しながら管理を徹底する。心葉の葉柄長が8cm以下の場合、電照時間を延長する。ただし3番花房分化時期であるため12月10日頃までは最大で4時間以内とする。

普通期作型では、生育が遅れているため高めの温度管理と多回数少量ずつのかん水が必要である。心葉が柔らかくなる管理をするためうどんこ病が発生しやすくなる。必ず、予防防除を行う。早進株や着果過多の株は、着果数(花数)に対して、株あたりの葉数が極端に少ないため着果負担が大きくなる。奇形果やすそ玉を摘花(果)し、着果数を10果程度に制限する。

今後の管理について

かん水 : 草勢維持に定期的なかん水を励行する。

マルチの上から土を押す等で、適湿を把握する。

液肥の施用 : 液肥は、株が弱らないよう定期的に施用する。

窒素成分で2kg/10a/月を3回以上に分けて行う。(窒素成分10%液肥20ℓで2kg)1番と2番果房がはなれた場合は、1番果房収穫終了～2番果房着色期の間は追肥しない。

ベレリン処理 : 2番果房の出蕾期に、ジベレリン 5 ppm で 5 cc / 株の処理を行う。(1 当り 1 回)

2番果房出蕾前でも「わい化」が予想される場合は、5 ppm の散布を行う。
心葉の葉柄長が 15 cm 以上で、生育が旺盛(柔らかい心葉が 2 枚以上立ち上がる状態)な場合は、ジベレリン処理を行わない。なぜなら、急な伸長により、雌しへの退化、花托の発達不良が起こりやすくなる。(ジベ処理と同様に、電照の延長や極端な高夜温・蒸し込み管理を行わない。)

芽の整理 : 2番果房出蕾以降の芽数は 4 芽までとし、「どろ芽やわき芽」の除去を徹底する。

果梗の除去とダニ防除 : 収穫が終了した 1 番果梗は、3 番果房の早期出蕾を促進するため、早めに除去する。同時に不要となった下葉の除去を行う。特に、ダニが発生した株は、拡大防止のため強めに葉の除去を行う。

温度管理 : 果房の収穫前(肥大期)は高めの温度管理とし、収穫期(着色期)には低めの温度管理とする。

果実品質が安定する 12 月中旬以降は、やや高めの温度管理に変更して生育促進を図る。1 番果房を 3 ~ 4 果収穫した後で、2 番果房の出蕾期となる場合は、昼夜温を高めに設定し、葉の展開と果房の伸長を図る。

【 果房の生育状況別温度管理の目安 】

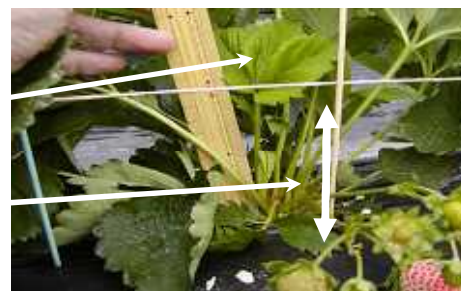
	昼 間	夜 間	備 考
1 番果房収穫期	20 ~ 24	5 ~ 7	収穫中は品質向上に低めの温度管理 12 月中旬以降はやや高めに変更
1 番果房収穫終了後 2 番果房出蕾 ~ 肥大期	24 ~ 28	5 ~ 7	2 番果房の生育促進と、3 番果の早期出蕾を目的として高めの管理

電照時間の調整

12 月は 2 番果房の出蕾や 1 番果房の収穫期となるため、株が弱り(わい化)やすいため、長時間(4 ~ 6 時間)の点灯が必要となる。3 番果房までの連続的な出蕾を促進して、収穫の促進と増加を目的に行う。電照時間は、草勢(特に心葉の展開状況)を観察し、その後の生育を予想して、1 ~ 6 時間で調整する。(電照を切らない)

心葉展開時に、外葉より、葉色がややうすく・つやがあるかを確認

心葉展開時の葉柄長



【 心葉展開時の葉柄長と電照時間調整 】

心葉展開時の葉柄長	8 cm 以下	9 ~ 10 cm 程度	12 cm 以上
電照時間の調整	時間を長く	現状維持	時間を短く

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!